

犯罪のない安全・安心まちづくり情報誌

Vol.

12

平成19年3月発行

くらし 安全通信

神奈川県 安全防災局
安全・安心まちづくり推進課

電話 045(210)1111

(内線3507・3515)

FAX 045(210)8953

E-mail: anzenansin@pref.kanagawa.jp

ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/anzenansin/anzennindex.htm>



安全・安心まちづくり
シンボルマーク

『いっしょだよ どこにいくにも ぼうはんベル!!』

平成18年度安全・安心まちづくり「標語」コンクール優秀賞作品(小学生の部)

2月3日(土)

安全・安心まちづくり県民大会が開催されました。



松沢知事(中央)と安全・安心まちづくり功労者表彰及び
奨励賞の受賞者の皆さん(詳細2面)



さわやか福祉財団理事長・弁護士
堀田力氏による
講演「さわやか防犯ボランティア」



神奈川県柔道連盟事務局長 伊藤吉治氏による
護身術講座「心で護る自分の身」



大会宣言を行う参加者及び主催者

平成18年度

犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰 及び奨励賞を受賞された方々をご紹介します。

この表彰は、自主防犯活動をさらに活性化し、県民総ぐるみの取り組みを広げていくため、「県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」に基づき実施しています。

功労者 表彰

長年にわたり、安全・安心まちづくりの活動に尽力し、特に顕著な功績があった方(団体)です。

浦賀防犯指導員連絡協議会(横須賀市)

正司政雄 様(横浜市戸塚区)

小泉森三 様(伊勢原市)

宮田良辰 様(川崎市高津区)

宮本千秋 様(横浜市瀬谷区)

奨励賞

安全・安心まちづくりのモデルとなるような実践的な活動を行っていて、地域社会への貢献度が高い団体です。

安心安全なまち会議連絡会
(厚木市)

市内14地区にある「安心安全なまち会議」が相互に連携し、情報交換することを目的に発足。「防犯モデル地区」を指定し看板を設置したほか、民間防犯監視所の設置など、地域防犯活動の活性化を図っている。

下府中地区女性防犯会
(小田原市)

主婦を中心とした団体で、自治会などが主催する防犯教室では、「振り込め詐欺」防止などの実地訓練に参加。地域の防犯活動だけでなく、警察や防犯協会と連携した広域的な活動も展開している。

にのみやアクティブクラブ
(二宮町)

防犯パトロールや子どもの登下校時の見守り活動、清掃活動など、幅広い活動をしている。活動を通じ、町には防犯灯が増え、防災無線で子どもの見守りを促す放送が流されるようになるなど、地域の防犯活動の活性化にも大きく貢献している。

日野南みちの会
(横浜市港南区)

平成15年から拍子木をたたきながらのパトロールを開始し、侵入盗(忍び込み、空き巣)が激減。総合的な活動を推進するため「日野南地域安全・安心まちづくり連絡協議会」を設立するなど、先例にとられない新たな活動を展開している。

緑・工場事業所防犯協会
(横浜市緑区)

職業人としての傍ら、警察や防犯協会と連携し、防犯キャンペーンを実施、「ファクスネット」を構築して地域安全情報等を自治会等に発信している。また、少年野球大会などの地域の催しを通じ、子どもの健全育成や見守り活動にも貢献している。

事業者の方々と 「地域安全に関する協定」 を結んでいます

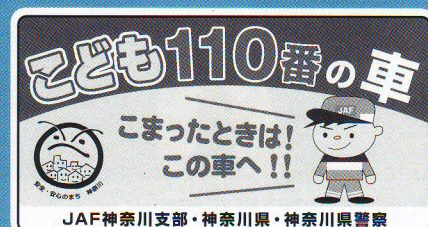
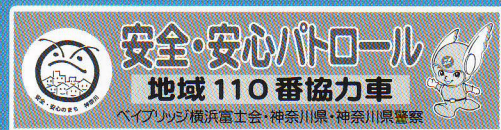


県では、安全で安心な地域社会の実現に向けて、県内事業者の方々と「地域安全に関する協定」を結んでおります。

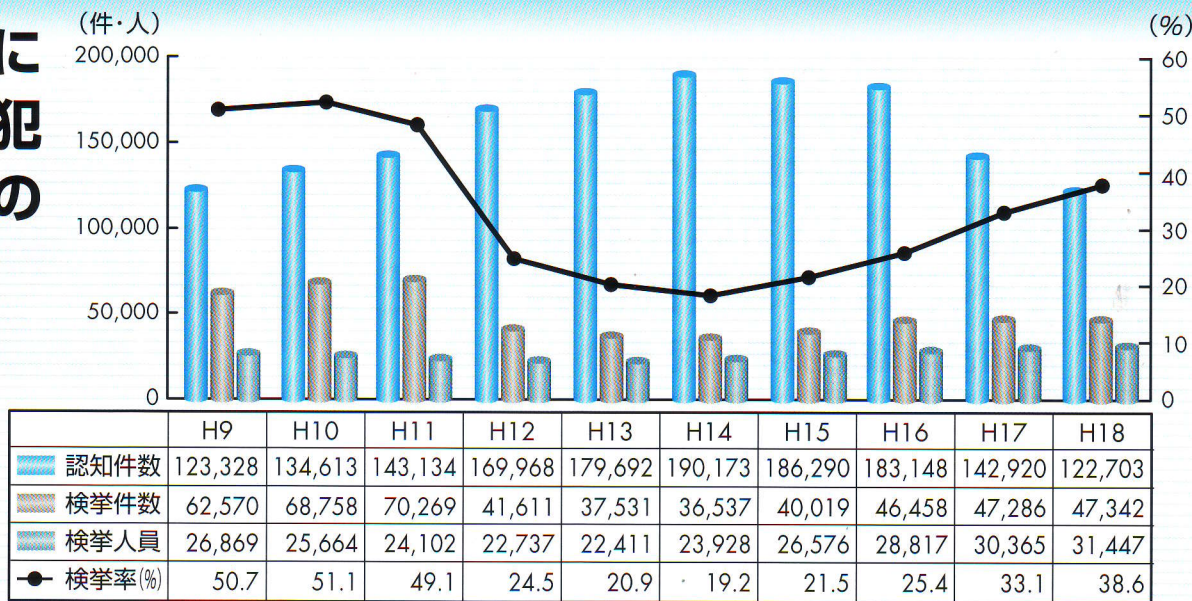
これまでに、総合警備保障株式会社(ALSOK)、ベイブリッジ横浜富士会(自動車販売機関連会社等59社加盟)、社団法人日本自動車連盟(JAF)神奈川支部と協定を結びました。

■協定の主な内容

- 締結事業者の車両に防犯パトロールステッカーを貼付
- 犯罪等が発生し、又は犯罪等に関する情報を認知した場合の積極的な警察への通報
- 安全・安心まちづくり旬間の催しやその他の各種イベント等への参加



神奈川県内における刑法犯認知件数等の推移



昨年の神奈川県内の刑法犯認知件数(届出等により警察が認知した件数)は約12万3千件で、一昨年より約2万件減少しました。また、検挙率についても5.5ポイント改善しました。

事故給付金制度 登録のお願い

事故給付金制度とは?

自主防犯活動に取り組むボランティアの皆さんが、その活動中の事故により負傷した場合などに給付金(全治2週間以上の負傷1万5千円、1ヶ月以上の負傷10万円等)を支給する制度ですが、予め県に登録をさせていただく必要があります。

① 申請書類

安全・安心まちづくり団体登録申請書

② 提出先

団体の所在地を管轄する県機関(横浜市内:安全・安心まちづくり推進課、川崎市:同川崎分室、それ以外:各地域県政総合センター安全防災課)

③ 申請書類の入手方法

申請書類は、提出先及び県安全・安心まちづくり推進課ホームページ(表紙のアドレス参照)にあります。

既登録団体の皆様へ

事故給付金制度の団体登録の有効期間は、登録した年度内です。翌年度以降も継続して登録を希望される団体の皆様におかれましては、平成19年4月1日から5月31日までに継続登録申請をお願いいたします。

5月31日までに継続登録申請をされた場合は、4月1日以降の活動中の事故が対象となります。6月1日以降に継続登録申請をされた場合は、申請日以降の事故が対象となりますのでご注意ください。

詳しくは、県安全・安心まちづくり推進課調整班

TEL 045-210-3507 まで

※登録は随時受け付けております。

※事故が発生し、活動者が負傷した場合などは速やかに県安全・安心まちづくり推進課にご連絡ください。

警察からの防犯アドバイス

ひったくりが多発!

今年に入ってひったくりが多発しています。

被害に遭われた方の特徴としては

- 約95%が女性
- 約53%が50歳以上の方
- 約51%が午後6時から午後11時までに発生
- 約98%が防犯対策をとっていなかった

(平成19年1月中)

ひったくりの被害に遭ったほとんどの方は、「まさか自分が…」と振り返っています。

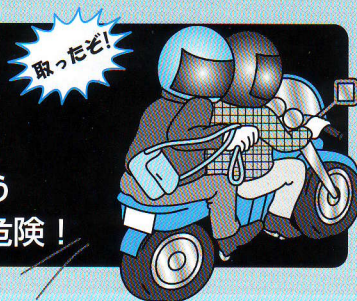
犯罪者はそういった皆さんのスキを狙っています。

普段からちょっとしたことに気を配ることで被害に遭う可能性がかなり低くなります。

被害に遭わないよう、「ひったくり対策のポイント」(下記)を心がけましょう。

ひったくり対策のポイント

- 人通りの多い道を選ぶ
- バッグ等は車道の反対側に持つ
- 自転車のカゴには防犯ネットを使用する
- 後方から近づいてくるオートバイ等には注意を払う
- ヘッドホン等は周囲の音が聞こえにくくなるので危険!



狙われない街はない！ 狙いにくい街は作れる すべては地域住民の努力から生まれる 港南台地域防犯を考える会



港南台は百貨店やスーパーが立ち並びJR根岸線「港南台駅」前を中心に広がる緑が多い閑静な住宅街です。平成14年2月、「港南台地区センター」において防犯講演会が開かれました。その講演を聞いた有志が「自分たちでできることを具体化しよう」と、自治会・町内会の枠を超えて結成したのが「港南台地域防犯を考える会」（以下「考える会」）です。「考える会」では年度初めの総会で活動方針等を承認し、毎月の役員会で会の運営や警察・行政の情報、地元町内の被害情報などについて幅広く意見交換、情報交換、検討を行っています。役員会終了後には、犯罪者はきれいな町では心理的に犯罪を起こしにくいということで、港南台駅前の清掃を行っています。

防犯パネル・グッズ展

「考える会」では年に1~2回、防犯講演会を実施してきました。ポスターの作成、チラシの配布、地元タウン誌への掲載などを行ったこともあって、地元港南台だけではなく、隣接の磯子区、金沢区、栄区等からも大勢の方々に参加しています。

しかし、講演会に足を運ばれる方は年配の方が多く、防犯活動への参加者は固定しがちでした。もっと幅広い年代、もっと多くの方に関心を持っていただくためにできることはないかということで始めたのが、今年度で3回目になる街頭イベント「防犯パネル・グッズ展」の開催です。

港南警察署や防犯協会、防犯機器関連事業者、関東学院大学の学生等の協力を得て、JR港南台駅前で防犯に関するカラーパネルの展示や防犯グッズの展示・実演を行い、好評を得ました。



防犯情報の出前

この街頭イベントにも多くの方が参加されましたが、港南台の全住民からするとまだまだごく一部です。地域の安全を守るためには地域全体の防犯意識の向上が欠かせません。そこで、「考える会」では、人が来るのを待つだけではなく、こちらから防犯情報を出前しようということで、「玄関灯夜通し点灯」を呼びかける防犯対策チラシを作成し、昨年度は港南台地区の一戸建て住宅に、今年度は集合住宅にも範囲を広げ、約1万枚を配布しました。



防犯監視板

「考える会」では独自に、樹脂製で雨風にも劣化しない「防犯監視」板を作成しています。

この監視板は掲示しているだけで「防犯意識の高い地区」だと周囲にアピールすることができるので、町内挙げて掲示することにより、外に向けてはより高い防犯効果を上げると同時に内に向けては防犯に対する連帯感の向上も狙えます。

そこで、廉価でお分けするなど、自治会単位で、あるいは隣近所でまとめて掲示することの普及に努めています。



児童の登下校時の安全確保

小学校現場は、防犯はもとより、いじめ、ゆとり教育の見直し等、様々な課題を抱えています。そうした中、小学校から依頼があるのを待つのではなく、できることを自分たちから発信しようということで、積極的に小学校に動きかけるとともに、一方で地域の自治会、老人会、有志に呼びかけて登下校時の安全パトロールを実施しています。



狙いにくい街を目指して

「考える会」は様々な切り口から精力的に防犯意識の向上に取り組んでいます。しかし、活動資金は会員の僅かな会費と、港南区からの補助金が主で、資金難が実情です。また、活動には、大勢の人手と時間が必要ですが、人手不足と高齢化という問題も抱え、ボランティア活動の活性化に頭を痛めています。

しかし、何もしないで被害に遭って後悔するよりも「地域の目」を輝かせ、「狙いにくい街作り」に今後とも努力していきたいと考えています。